

2023年10月25日

第2回「国への働きかけに向けた副首都化を後押しする仕組みづくりに関する意見交換会」  
における、意見・質問等について

京都産業大学  
倉本宜史

この度は、西崎先生のご説明を直接うかがえませんが、申し訳ございません。

また、書面での質問をいたしますことも、重ねてお詫びいたします。

以下では、幾つかのご意見、質問をいたします。可能な範囲でご回答をいただけますと、幸いです。

□ 東京圏の生産性を高め切れていない要因としての情報通信業におけるフリーライドについて

・西崎先生の2015年の論文の8ページでも示されているように、生産性が相対的に低い地域（中小都市）から、大きな地域（大都市）への人口や企業の移動の結果、他の条件が変わらなければ、最初は国全体の生産性が高まります。しかし、次第に地域間での生産性が均等化します。そして、人口や企業の移動は止まるのが、経済学では考えられます。また、人口や企業の集積自体が「成長エンジン」の役割を果たす（正の外部性を持つ）のならば、集積したことによって、集積していない地域と比較して生産性が高まります。結果として、さらに人口や企業を増やした水準で、生産性の均等化が達成されます。

（質問1）

- ・しかし、日本の経済成長に大きく寄与している知的集約型産業（1頁の図表4）が「一極集中」していると言える東京圏（12頁11行目）において、知的集約産業のうちの情報通信業について、16頁の13行目に「情報通信業で就業者が集中しているほどには付加価値が集中していない」と書かれています。これは、「フェイスツーフェイスの情報交換」（8頁の下から6行目）においてフリーライドが起こっており、その程度が大きいために情報交換の質・量が過少供給の状態になっているのではないかと、思いました。この解釈のできる可能性について、フリーライドができる状況なのかどうか、ご存じでしたら、教えてください。
- ・また、日本において、知的集約型サービス業（情報通信業）での交換される情報へのフリーライドが起こっており、それが海外の国々と比べて就業者の集中度に対する産業別付加価値の集中度を高められていない原因だとすれば、その背景に何があるのでしょうか。例えば、日本での情報交換の「場」が閉鎖的で、海外と比較して高い参加障壁が存在するのでしょうか。

#### □ 大阪でイノベーションを起こす可能性について

・西崎先生の同論文において、12 頁 9 行目に「近畿圏では学術研究・専門技術サービス業で就業者合計の集中度をはっきりと上回っている」と書かれています。図表 6 を見ると、東京圏の約 40%と比較して、20%弱の数値（半分以下の集中度）ですが、全国的にみると集中していると思われます。また、21 頁の下から 5 行目に「東京都と大阪府を比べると、生産性の違いは」、学術・開発研究機関「では比較的小さい。」と書かれています。以上より、近畿・大阪地域においては、学術研究関係の産業に強みがあると読み取れます。また、26 頁の下から 5 行目に「現状でも、近畿の都市において東京を上回る生産性を示す分野があり、大規模な消費都市としてだけでなく、イノベーションの一大拠点としての役割が期待される。」と書かれていますように、近畿・大阪地域には、学術研究関係の産業以外にも、強みとなる産業が存在していることがうかがえます。

#### (質問 2)

- ・そこで、その東京を上回る生産性を示す分野はどの分野であるか、教えていただけますでしょうか。
- ・また、学術研究関係の産業とこの東京を上回る生産性を示す分野の産業とは、産業間の技術に関する情報交換により、更なるイノベーションを生むことがしやすい産業かどうかを教えていただけますでしょうか。

なお、24 ページには「学術研究・専門サービス業」の集積と開業率には関係がなさそうだという結果を受け、新たな企業を生むというイメージではなく、商品開発等での共同研究の可能性について、伺えればと思います。

以上、大きく分けて 2 点について、提出させていただきます。

#### □ 資料1についての意見

- ・日本における人口首位都市圏である東京圏では、他国と比べて人口集積のメリットを生んでいない（活かせていない）ことは理解しました。そこで、民間資本、もしくは社会資本ストックの増加に関する集積のメリットの有無や集積の効果について、西崎先生が分析しておられましたら、教えていただければと思います。これは現在の東京の一極集中からの反省点を考える際の、もう一つの視点になるかと考えています。例えば、東京圏や大阪圏での交通に関する民間投資や公共投資の限界生産性が、他の地域よりも高いにも関わらず、他の地域への投資が優先されている可能性があると考えます。例えば、スライド13では通勤時間が一極集中の費用になっていることも示されていました。巨額の資金を必要とする交通に関する投資に見合う、便益を得ることは、実際には難しいのかもしれませんが、資本ストックの集積のメリットは、地域間で違いがあるのかについて、関心を持っています。
- ・東京圏では、世界的に見て人口集積に見合った水準でGDPが伸びていないと理解できません。そのような状況下で、東京の地価は生産性を考慮しても高い状態にあるといったように、生産に係る費用は上昇しています。先の質問1では、知的集約型産業の細かな内容について質問をいたしました。広く、人口集積に伴い伸びるべきメリットの足かせになっているものが何かについても、関心があります。
- ・大阪圏の人口や資本の集積による経済成長と、副首都にふさわしい経済圏の確立を目指すうえで、東京圏の一極集中における反省点を「どう大阪圏に活かせるか」も考察する必要があるかと思えます。二極・多極集中となったときに同じ問題を抱えた都市が二つできる状況は本末転倒ですので、何をどう活かせるのかを示すことは、最終的な会のまとめに際しては、重要な視点だと考えます。